

ふくしまグリーン復興構想

平成31年4月

福島県・環境省

目次

1	背景・目的	1
2	自然公園の概況	2
	（1）福島県における自然公園等の概況	2
	（2）自然公園を活用した取組	3
	（3）市町村の意識	4
3	自然公園を取り巻く課題等	5
	（1）上質な景観の保全	5
	（2）利用拠点の修繕・整備	5
	（3）自然公園の利用実態	5
	（4）インバウンド対策	5
	（5）情報発信	5
	（6）自然環境の保全	6
	（7）環境負荷の低減	6
	（8）交通環境整備	6
4	目指すべき姿	7
	（1）基本方針	7
	（2）コンセプト	7
5	目標	7
6	3つの柱と具体的取組	8
	【柱1】国立公園・国定公園の魅力向上	9
	【柱2】環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し	11
	【柱3】国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊する仕組みづくり	12
7	効果的な実施に向けて	14
8	資料編	15

1 背景・目的

福島県は、広大な県土を背景に豊かで多様性に富んだ自然環境に恵まれ、尾瀬国立公園や磐梯朝日国立公園に代表される自然公園には、県内外から毎年 1,600 万人を超える多くの人々が訪れ、賑わいを見せていた。

しかしながら、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した大津波及び東京電力福島第一原子力発電所事故による災害。以下「震災」という。）の影響により、自然公園の利用者数は急激に落ち込み、今もなお、震災前の 7 割に満たない状況が続いている。

震災から 8 年が経過し、帰還困難区域の再生を始め今後一層本格化する福島県の環境回復に向けた取組を引き続き全力で推進する必要がある一方で、福島県の自然環境の素晴らしさをより多くの人々が実感し、次の世代にしっかりと引き継ぐための取組を今日の社会情勢や環境変化等を十分に踏まえつつ、環境回復の取組と並行して本格的に進めていく必要がある。

こうした中で、環境省は、平成 30 年 8 月に、福島復興の新たなステージに向けた支援方針「福島再生・未来志向プロジェクト」の一つとして、福島県内の自然資源活用による復興「ふくしまグリーン復興への支援」を行うことを公表した。

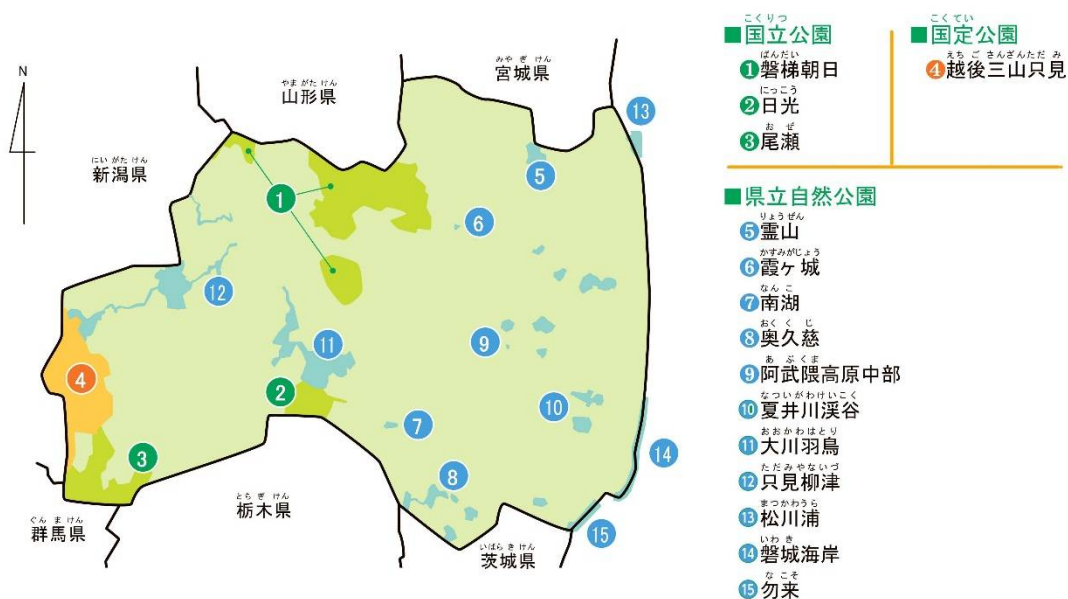
本構想は、福島県内各地域のニーズを踏まえながら、福島県と環境省が共同で、ふくしまグリーン復興に関する取組の基本的な方向性を取りまとめたものである。具体的には、福島県の優れた自然環境を代表する国立公園・国定公園の魅力向上や、自然資源はもとより歴史や文化、景観、食、温泉などの地域資源を取り入れた自然公園間を広域的に周遊する仕組みづくりなどにより、自然環境の保全と調和を図りながら適正な利用を促進し、交流人口の拡大を目指すものである。

なお、本構想は、美しい自然環境に包まれた持続可能な社会の実現（福島県環境基本計画【第 4 次（改定）】）及び地域循環共生圏の創造（第五次環境基本計画）に沿って取り組むものとする。

2 自然公園の概況

(1) 福島県における自然公園等の概況

- ・ 3つの国立公園、1つの国定公園、11の県立自然公園がある。全体面積は179,096haで県土の約13%を占めている。



- ・ 福島県の自然公園は、美しい自然の風景地を始め、歴史的価値が高い地域や自然の恵みが産業を支える地域等があり、多様な自然環境を守り、育む人々の営みによって支えられている。



五色沼（北塩原村）
（磐梯朝日国立公園）

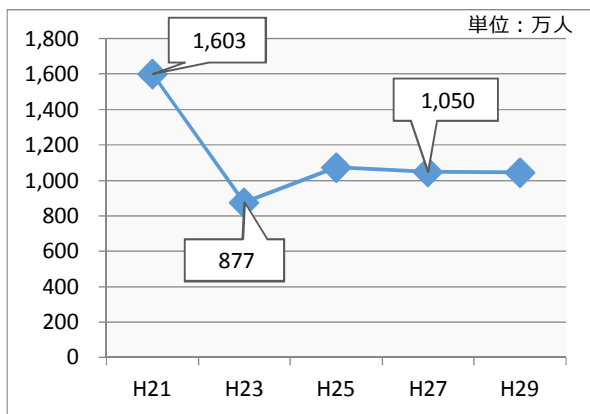


大江湿原（檜枝岐村）
（尾瀬国立公園）

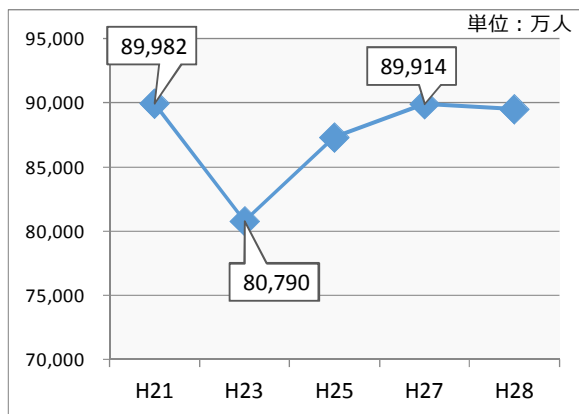


只見川と大志集落（金山町）
（只見柳津県立自然公園）

- ・震災の影響により、自然公園の利用者数は大きく減少し、震災前の7割に満たない状況となっている。
- ・震災の直接的な影響が少なかった会津地方においても、風評により、教育旅行入込数の回復が遅れている。



グラフ1 福島県内の自然公園利用者数推移



グラフ2 全国自然公園利用者数推移

(2) 自然公園を活用した取組

- ・近年、福島県では、磐梯朝日国立公園を含むエリアにおいて、平成23年9月に「磐梯山ジオパーク」が日本ジオパークとして認定され、平成26年6月には、越後三山只見国立公園、只見柳津県立自然公園を含む只見町全域が「只見ユネスコエコパーク」として認定されるなど、自然環境の保護・保全を図りつつ持続可能な形で利活用する取組が進められている。



磐梯山ジオパーク (北塩原村)

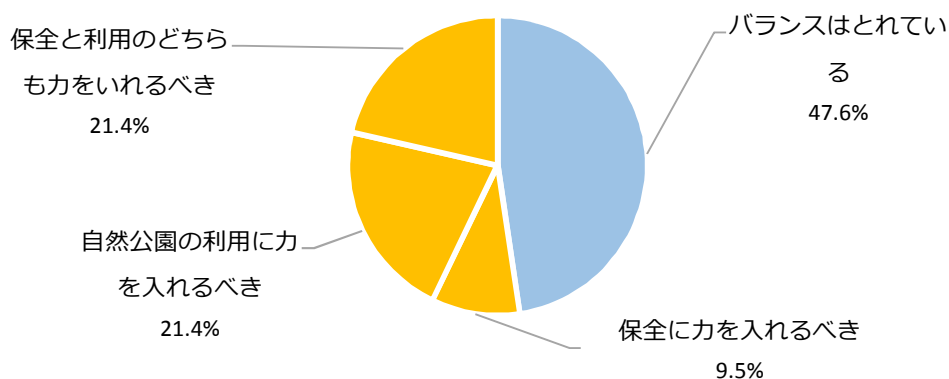


写真：只見町提供

只見ユネスコエコパーク (只見町)

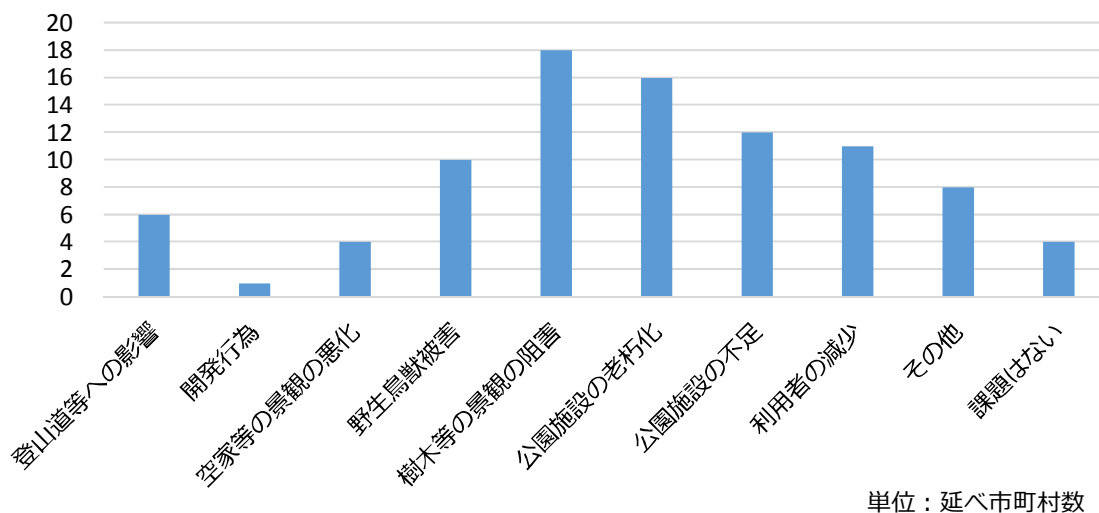
(3) 市町村の意識

- ・自然公園を有する市町村に対して実施したアンケート（平成30年12月）では、自然公園における取組の必要性について、半数近くが「バランスはとれている」としつつも、半数以上が「保全に力を入れるべき」、「利用に力を入れるべき」「保全と利用のどちらにも力を入れるべき」と取組の必要性を感じている。



グラフ3 保全と利用について

- ・また、自然公園に対する課題については、「樹木等の景観の阻害」や「公園施設の老朽化」等が挙げられており、これらに対する対策が望まれていることがうかがえる。



グラフ4 自然公園の課題について

3 自然公園を取り巻く課題等

(1) 上質な景観の保全

- ・ 昨今、展望地等においては、樹木の生長や雑草の繁茂等による眺望や景観の阻害が生じている。自然環境に影響を与えないことを前提に、関係者や関係機関等と十分に協議の上、上質で魅力ある景観を守っていく取組が必要である。

(2) 利用拠点の修繕・整備

- ・ 登山道や遊歩道、案内標識等の施設の老朽化やトイレの洋式化などの対応の遅れにより自然公園の魅力が損なわれている。これらを改善するとともに、案内標識の多言語化など、若い世代や外国人利用者の新たな時代のニーズに応えるだけでなく、より魅力的なものとなるよう、公園施設の修繕、整備等を行う必要がある。

(3) 自然公園の利用実態

- ・ 福島県の自然公園は、高速交通網の整備などにより、「日帰り」かつ「短時間」の利用形態が多い。このため、地域の持つ個々の魅力を向上させ、滞在型の利用を促進する体験メニューや仕組みづくりが必要である。
- ・ ゴールデンウィークや夏休み、紅葉シーズン等に利用者が特定のエリアに集中することによって、渋滞や危険な路上駐車が見られることから、利用者が分散、流動（周遊）できる仕組みづくりが必要である。

(4) インバウンド対策

- ・ 福島県を訪れる外国人宿泊者数については震災前の水準を回復したとはいえ、全国的に見れば十分とは言えない。このため、国立公園・国定公園のナショナルパークとしてのブランド力のアピールと、豊かな自然や地域に根ざした歴史、文化、食、温泉等の魅力ある地域資源を活用し、そのポテンシャルを発揮することが必要である。
- ・ 自然公園内の標識、施設については、外国語表記、Wi-Fi及び携帯電話等の通信環境、外国人利用者への接遇等の対応が十分ではない場所もあるため、外国人利用者の目線に立ってこれらの改善を早急に図ることが必要である。

(5) 情報発信

- ・ 自然公園利用者の減少等は、震災後の福島県における復興の現状に対する正しい理解が進んでいないことがその一因と考えられるため、リスクコミュニケーションの取組を継続的かつ着実に進めるとともに、正確な情報を発信し続ける必要がある。
- ・ 自然公園では、多様なガイドツアーやアクティビティ等が提供されているが、一元的な情報発信がされていないため、利用者が積極的に情報収集をしなければならず、当該自

然公園の持つ本物の魅力が十分周知されていないことが多いことから、ワンストップ型の情報発信が必要である。

(6) 自然環境の保全

- ・外来種の侵入による生物多様性の損失や野生鳥獣による貴重な植物の食害等の問題が発生しており、外来種の駆除や鳥獣被害対策を進めるなど、自然環境を保全する取組が必要である。
- ・国立公園と比較し、国定公園、県立自然公園においては、公園区域及び公園計画の見直し等が十分に行われてこなかったことから、昨今の環境変化を踏まえ、これらの見直しについて検討し将来にわたる自然環境の保全と適正な利活用を図る必要がある。併せて、専門家等による自然環境の調査研究や普及啓発活動を推進していく必要がある。

(7) 環境負荷の低減

- ・自然を保護するためにも利用者に対して自家用自動車の利用から公共交通機関、自転車等の活用を推進するとともに、公園内の施設においては再生可能エネルギー等を積極的に活用するなどの脱炭素の取組や資源循環の取組が求められる。

(8) 交通環境整備

- ・福島県は、一部で震災や豪雨災害[※]による影響は残るものの鉄道や道路、高速道路網の整備により主要都市までのアクセスは比較的容易である。しかし、主要都市から自然公園まで、並びに自然公園内、及び自然公園間を結ぶ公共交通機関が少ないなど、自然公園を自由に周遊することが難しく、二次交通の整備とその利便性を高める必要がある。

※豪雨災害… 平成 23 年 7 月新潟福島豪雨や平成 27 年 9 月関東東北豪雨等の豪雨災害

4 目指すべき姿

(1) 基本方針

- 豊かで多様性ある自然環境を適切に保全するとともに、魅力的で質の高い自然体験の提供を通じて自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へ継承する。
- 国立公園・国定公園を始めとする個々の自然公園の魅力向上と様々な地域資源を取り入れた自然公園間を広域的に周遊する仕組みづくりなどにより、自然公園利用者数の回復と交流人口の拡大を図り、福島県全体の復興に寄与する。
- 脱炭素や資源循環等の視点による新たな仕組みの検討や構築等を通じて、環境負荷が少なく持続可能な自然公園を目指す。

(2) コンセプト

次をコンセプトとし、本構想の取組を推進する。

まもり、みがき、未来へつなぐ。至福のふくしま

福島県内の豊かな自然を保全し（まもり）、魅力の向上や周遊の仕組みづくり等を通じて自然公園利用者数の回復等を図りながら（みがき、つなぎ）、自然の恵みや持続可能な活用等を次世代へ継承する（未来へつなぐ）。

素晴らしい自然とふくしまをかけあわせ、「至福のふくしま」と表現している。

5 目標

国立公園・国定公園を中心とした取組を行うことにより、国立公園・国定公園の利用者数が震災前を上回ることを目指す。

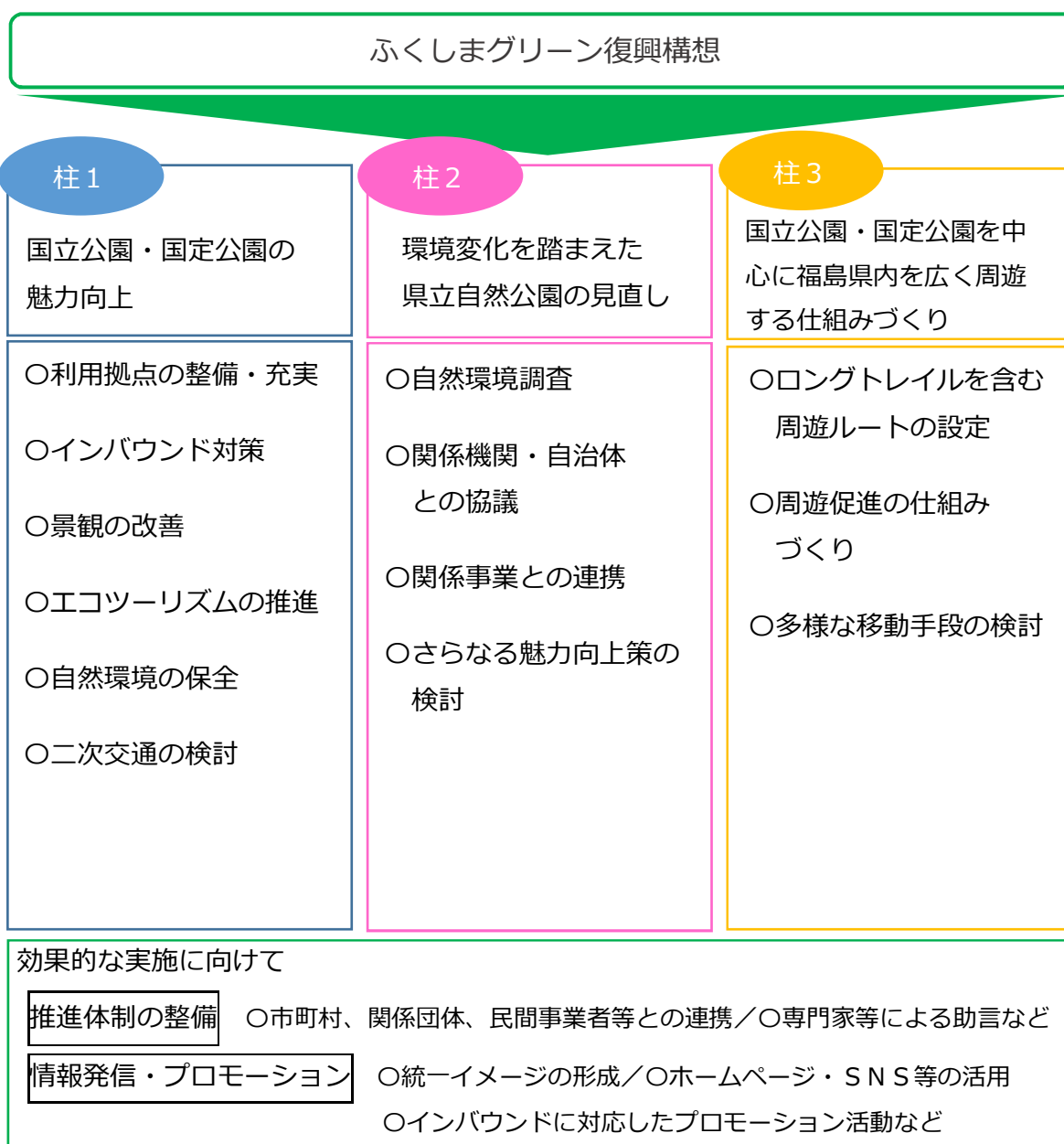
なお、これらの取組内容の充実と進化を図りながら、将来的には、福島県内の他の自然公園へと水平展開を図るものとする。

国立公園・国定公園利用者数

平成22年 (2010年)	→	平成29年 (2017年)	→	【目標】 2023年
640万人		580万人		700万人

6 3つの柱と具体的取組

福島県と環境省は互いに連携し、自然公園の利用者や各地域のニーズ等の把握に努めながら、「国立公園・国定公園の魅力の向上」、「環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し」、「国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊する仕組みづくり」の3つの柱に沿って本構想の実現に取り組む。構想の推進に当たっては、統一イメージの下に、市町村、関係団体、民間事業者等と連携を図りながら、情報発信やプロモーションを行う。



ふくしまグリーン復興推進体系図

【柱1】 国立公園・国定公園の魅力向上

福島県の国立公園は、吾妻連峰や磐梯山など火山が造った迫力の大地と大小の湖沼が織りなす変化に富んだ美しい景観が魅力の磐梯朝日国立公園や、先人の努力によって貴重な自然を保ち「自然保護の原点」とも呼ばれ名峰に囲まれ花咲き乱れる日本最大の山岳湿原が魅力の尾瀬国立公園、阿武隈川の源流域である甲子高原の美しい溪谷が魅力の日光国立公園がある。

また、ブナ林等が広がる越後三山只見国定公園は福島県エリア全域が只見ユネスコエコパークに認定されており、自然環境の保護・保全を図りつつ持続可能な形で利活用する取組が進められている。

こうした国立公園・国定公園を中心にそれぞれの自然公園が持っている魅力を最大限に活かし、磨きあげることにより、本物の自然を満喫し深い感動を味わうことのできる質の高い空間づくりを目指す。また、公園の特徴をいかしたコンテンツの創出や外国人利用者を含む多様なニーズへの対応により、利用者数の増加と滞在時間の拡大を図る。

さらに、自然公園における先進的な環境技術の実証や環境にやさしい取組の促進を通じて利用者の環境意識の高揚や持続可能な自然公園を目指す。

《具体的取組》

○利用拠点の整備・充実

- 国立公園・国定公園内の老朽化した遊歩道・案内標識等の再整備を計画的に行い、利用者の満足度向上、多様化する公園利用ニーズに対応する。
- 尾瀬沼ビジターセンターについては、尾瀬沼の中心地として情報提供や学習支援の充実を図るとともに、緊急避難にも対応した施設として2020年までに建築完了を目指す。併せて周辺の園地についても、尾瀬沼湖畔の眺望が楽しめるテラスの設置や活動拠点としての機能を強化し、再整備を行う。
- 誰もが気軽に自然を楽しむことができる仕組みの構築に向けた、利用・体験型のメニューや公園利用者の満足度をさらに高めるため必要となる機能等について検討し整備を図る。

○インバウンド対策

- 増加傾向にある外国人利用者に対し、それぞれの自然公園の情報や魅力を分かりやすく効果的に伝えるため、標識やサイン等の多言語表記、外国語対応のガイドや通訳案内士の育成、コミュニケーション支援ボードを始め案内ツールの活用等を図る。

- このほか、外国人利用者の利便性やサービスの向上に向け、W i - F i などの通信環境整備やトイレの洋式化等を図る。

○景観の改善

- 国立公園・国定公園を中心としたビューポイントの洗い出しを行い、自然環境に影響を与えないことを前提に、当該ビューポイントにおける眺望の阻害要因を取り除き、景観改善を行うとともに、多言語化対応の案内標識の設置を行う。

○エコツーリズムの推進

- 裏磐梯などにおいてファムトリップ[※]等を通じた魅力的なツアーコンテンツの造成を図るとともに、ガイド等の人材の確保・育成の取組を支援する。
- 尾瀬国立公園において、利用者の拡大を図るため、次世代を担う若者をターゲットとしたモニターツアーや幅広い世代を対象に尾瀬の魅力を知ってもらうためのフェスティバルの開催などを行い、S N S等を活用した情報発信を行うほか、全国有数の水質を誇る猪苗代湖において、水環境保全のために取り組んでいるヒシ刈り・ヨシ刈りや湖岸清掃、裏磐梯湖沼群における美化活動などと連携し、自然体験による学びの場として活用していく。
- 魅力ある自然環境を次世代に継承するため、子どもたちを始め様々な世代が体験や活動等を通し楽しみながら自然の大切さを学ぶことができるメニューの充実を図る。

○自然環境の保全

- 魅力ある自然環境を守り次世代へ継承するため、猪苗代湖を始めとする湖沼の水環境保全活動や調査研究、特定外来生物の防除、野生鳥獣による貴重な植物の食害対策等を積極的に行い、自然環境の保全を推進する。

○二次交通の検討

- 国立公園・国定公園内の移動手段について、観光シーズンにおける交通渋滞の緩和や利便性の向上、環境負荷低減の観点から自転車の活用促進や脱炭素等の視点による地域交通モデルの検討、実証を行う。

※ファムトリップ… 観光地の誘致促進のため、ターゲットとする国の旅行事業者やブロガー、メディアなどに現地を視察してもらうツアー。

《想定スケジュール》

2019年度	2020年度	2021年度～
○利用拠点の整備・充実	→	→
○インバウンド対策	→	→
○景観の改善	→	→
○エコツーリズムの推進	→	→
○自然環境の保全	→	→
○二次交通の検討	→	

【柱2】環境変化を踏まえた県立自然公園の見直し

福島県内の11の県立自然公園は、昭和23年から同28年にかけて指定された公園であり、それぞれの地域を取り巻く環境や地元の自然に対する意識、取組等も変化している。

このうち、「只見柳津県立自然公園」は、隣接する「越後三山只見国定公園」と同様に貴重なブナ林が広がり、雄大な山々では雪食地形が見られ、平成26年には只見町全域がユネスコエコパークに認定・登録され積極的な保全活動が展開されているほか、近年、只見川や四季折々の山々を背景としたJR只見線が織りなす景観に国内外から注目が集まり多くの旅行者が訪れている。

このため、地域の要望も踏まえ、両自然公園の豊かな自然環境を一体的に管理し、適切な自然保護と景観保全、適正利用を更に推進するため、只見柳津県立自然公園の見直しを図り国定公園編入に向けた調査、検討に取り組む。

《具体的取組》

○自然環境調査

- －自然公園の現状を把握するため、文献調査、現地調査等を実施し、地域の自然や動植物の特徴を調査するとともに新たな魅力の発掘等を行い、一体的に保全し利用を促進する区域を検討、設定する。

○関係機関・自治体との協議

- －見直しに関しては地元自治体や関係機関と十分に協議を図り、調査・検討を行う。

○関係事業との連携

- －JR只見線の利活用や只見ユネスコエコパーク等の取組など、自然公園内の各種取組と連携を図りながら見直しを行う。

○さらなる魅力向上策の検討

－国定公園編入手続の状況を踏まえながら、公園のさらなる魅力向上に向けた取組や機能の充実について検討する。

《想定スケジュール》

2019 年度	2020 年度	2021 年度～
○関係機関・自治体との協議 ○自然環境調査	○福島県自然環境保全審議会への諮問 ○関係事業との連携	○中央環境審議会への諮問 ○さらなる魅力向上策の検討

【柱3】 国立公園・国定公園を中心に福島県内を広く周遊する仕組みづくり

国立公園・国定公園等の利用回復を福島県の復興につなげていくためには、自然公園などの自然資源と歴史や文化、食、温泉などの地域の魅力を効果的に結びつけ、福島県内での滞在時間の拡大を図っていく必要がある。

また、近年は、環境や健康への意識が高まる中で、自然公園の魅力をより深く味わうエコツーリズムや、自然や風景、地域の人々との交流を楽しみながら歩いて旅をすることのできる取組に関心が高まっている。

このため、自然資源や文化資源等を掘り起こし、磨き上げ、つなぎ合わせることにより、点ではなく、線・面的に周遊できるよう、必要な環境整備を図りながら、広域周遊や繰り返し訪れてもらえるような仕組みを構築する。

《具体的取組》

○ロングトレイルを含む周遊ルートの設定

- 福島県内には様々な歴史、文化、食、温泉などの地域資源があることから、国立公園・国定公園を核として多様な魅力を楽しめる周遊ルートの設定を行う。
- 特徴の異なる国立公園・国定公園の間を結び、地域の自然環境や暮らし、人々との交流を楽しみながら歩いて旅をすることのできるロングトレイルの検討を行う。
- これらの取組において、県立自然公園、東北自然歩道「新奥の細道」などの活用や福島県のホープツーリズム[※]との連携等による、広域周遊の仕組みを検討し、福島県全域の交流人口の増加につなげる。

○周遊促進の仕組みづくり

- ロングトレイルを含む周遊ルートを活かしたモニターツアーやファムトリップ等を行い、多くの人に気軽に利用してもらうため内容の充実を図るとともに、地域との交流やおもてなしの在り方等を検討する。
- 国立公園・国定公園の利用者に繰り返し訪れてもらえるよう周遊ルートにおけるビューポイントや文化資源等を紹介するルートガイドの作成や訪れたビューポイント等の記録が旅行者の記念に残るような方策を検討する。

○多様な移動手段の検討

- ロングトレイルでの歩く旅に加え、自転車、バスや鉄道などの公共交通機関を活用した環境にやさしい周遊について検討を行う。

《想定スケジュール》

2019年度	2020年度	2021年度～
○ロングトレイルを含む周遊ルートの検討	○ロングトレイルを含む周遊ルートの設定 ○周遊促進の仕組みづくり	
○多様な移動手段の検討		○広域周遊の仕組みの検討

※ホープツーリズム… 復興に正面から向き合う「人」との出会いや、「福島のありのままの姿」を実際に見て、聴いて、学んで、そして希望を感じてもらおうツアー。

7 効果的な実施に向けて

○推進体制の整備

- 本構想の着実な具現化と効果的な展開を図るため、地元市町村や関係団体、民間事業者等による推進体制を構築する。
- 構想の推進にあたっては、適宜、自然保護や利用促進に関する専門家等からのアドバイスを得るものとする。

○情報発信・プロモーション

- 自然公園に関連する情報を一元的に発信するワンストップ型の多言語ホームページやパンフレット等を作成するとともに、統一イメージの下、多様な主体による取組の一体感を醸成しながら構想に基づく事業の進捗等について分かりやすく発信する。
- 自然公園の四季の魅力について動画を使って広く発信するほか、モニターツアー参加者や公園利用者によるSNSを活用した情報発信を促進する。
- ファムトリップ等海外への周知のほか、外国人観光案内所（TIC）の活用など国内にいる外国人へ向けた取組を検討する。
- 新宿御苑を始めとする国民公園を活用して、福島県内の自然公園などの自然資源や文化などの魅力を発信する。
- 国や県のみならず市町村や民間事業者等による各種事業との十分な連携とその相乗効果によるプロモーションの効果的展開を図る。

8 資料編

- 1 ふくしま再生・未来志向プロジェクト
- 2 自然公園に関するアンケート調査

福島再生・未来志向プロジェクト

「福島」×「脱炭素・資源循環・自然共生」

2018年8月 環境省「福島再生・未来志向プロジェクト」チーム

基本的な考え方

- ▶ 福島県内の地元のニーズに応え、環境再生の取組のみならず、脱炭素、資源循環、自然共生といった環境省の得意分野と福島との連携を深め、福島復興の新たなステージに向けた取組を推進。
- ▶ 環境省事業を効果的に組み合わせ、また、放射線健康不安に対するリスクコミュニケーションや広報・情報発信を通じて地元へ寄り添いつつ、分野横断的な政策パッケージを戦略的に展開。

産業創生への支援

<なりわいの復興>

政府の「福島イノベーション・コースト構想」との連携のもと

- ▶ 環境・リサイクル分野における官民連携によるプロジェクトの具体化。
- ▶ 先端リサイクル技術の実証・実践。
- ▶ 先導的なバイオマスや再生可能エネルギーの技術実証やモデル事業の推進。等

上記のプロジェクトの実施により福島新エネ社会構想の加速化にも貢献

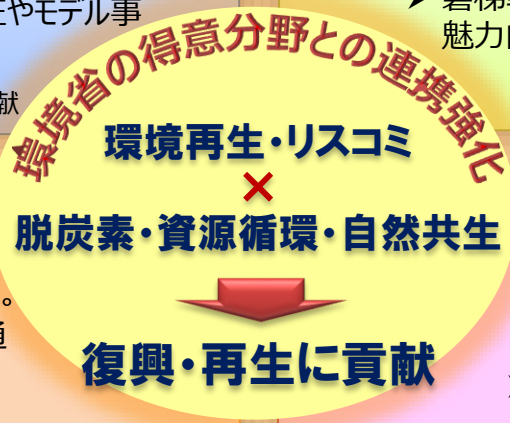
ふくしまグリーン復興への支援

<自然資源活用による復興>

- ▶ 福島県内の自然資源、文化資源等を活かしたエコツーリズムの支援やロングトレイルの検討。
- ▶ 磐梯朝日国立公園及び尾瀬国立公園の魅力向上。等



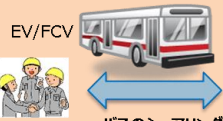
尾瀬沼ビジターセンター完成予想図



脱炭素まちづくりへの支援

<暮らしの復興>

- ▶ 先導的な脱炭素技術やICT技術を活用したまちづくり。
- ▶ 再生可能エネルギーの活用や脱炭素技術の導入を通じた、地域コミュニティの活性化、安全・安心の確保、高齢化社会への対応。等



EV/FCV
復興作業に従事する方々の通勤の足
バスのシェアリング
※朝夕は通勤の足、昼間は暮らしの足



営農再開に向けた環境保全としての創エネ
(ソーラーシェアリング)



ゼロ住宅
(ゼロエミッションハウス (ZEH)、直交集成板 (CLT): 木質材料)

地域活性化への支援

<リスコミ・情報発信による復興>

- ▶ 放射線健康不安に対するリスクコミュニケーション。
- ▶ 地域の魅力発信や、シティープロモーションの後方支援。



檜葉町における田植えイベントの様子



リップルふくしま内観完成予想図

- ▶ リプルンふくしま等の環境省施設の活用や、環境創造センターとの連携、原子力災害からの復興の歩みを学ぶホープツーリズムの検討。等

推進体制

- ▶ 福島地方環境事務所に、これまでの環境再生の取組に加え、「福島再生・未来志向プロジェクト」をワンストップで推進する体制を構築。

自然公園に関するアンケート調査

集計結果（自然公園・振興局別）

福島県 生活環境部 自然保護課

平成31年1月

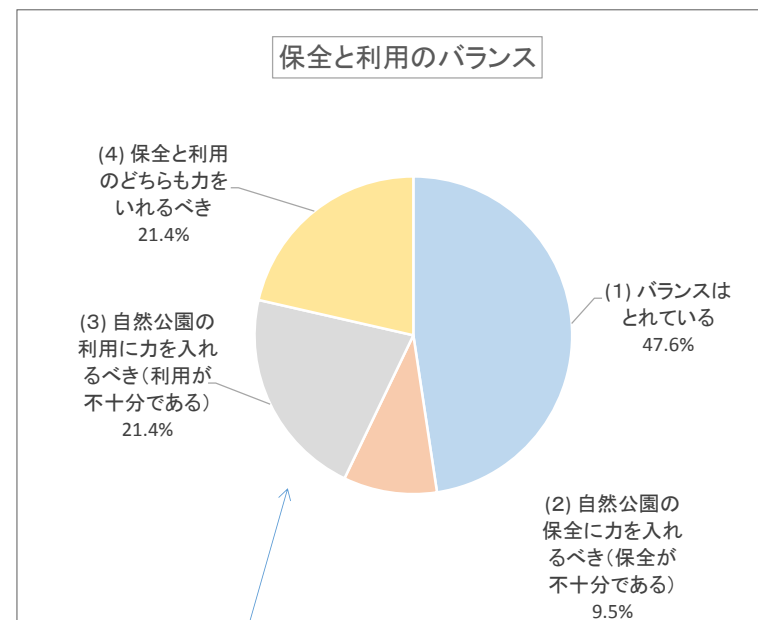
【アンケート概要】

- | | |
|--------|---|
| 1 目的 | 県内の自然公園の利用者数は震災前の水準に回復していない現状が続いており、自然資源の活用による取組を推進する必要がある。各自然公園の現状と自治体の考え方について調査し、今後の業務の参考とする。 |
| 2 内容 | A 保全と利用について
B 課題について
C 魅力向上について
D 交通・周辺状況について
E その他 |
| 3 対象 | 県内32市町村（全市町村より回答） |
| 4 回答期間 | 平成30年12月12日～12月21日 |

A 保全と利用について

A1 当該自然公園の保全と利用のバランスについて、最も当てはまるものを1つ選んでください。

	(延べ)回答 市町村数	(1) バランスはとれている	(2) 自然公園の保全に力を入れるべき(保全が不十分である)	(3) 自然公園の利用に力を入れるべき(利用が不十分である)	(4) 保全と利用のどちらにも力を入れるべき	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	20 (47.6%)	4 (9.5%)	9 (21.4%)	9 (21.4%)	
自然公園単位	磐梯朝日国立公園	10 (40.0%)	4		3 (30.0%)	3 (30.0%)
	尾瀬国立公園	2			1 (50.0%)	1 (50.0%)
	日光国立公園	2	1 (50.0%)			1 (50.0%)
	越後三山只見	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)		
	只見柳津県立自然公園	6	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	
	大川羽鳥県立自然公園	4	4 (100.0%)			
	霞ヶ城県立自然公園	1			1 (100.0%)	
	南湖県立自然公園	1				1 (100.0%)
	奥久慈県立自然公園	3	1 (33.3%)		1 (33.3%)	1 (33.3%)
	阿武隈高原中部県立自然公園	5	2 (40.0%)		1 (20.0%)	2 (40.0%)
	勿来県立自然公園	1		1 (100.0%)		
	夏井川溪谷自然公園	1			1 (100.0%)	
	磐城海岸県立自然公園	1		1 (100.0%)		
	松川浦県立自然公園	1	1 (100.0%)			
	霊山県立自然公園	2	2 (100.0%)			
振興局単位	県北地方振興局	5	2 (40.0%)		2 (40.0%)	1 (20.0%)
	県中地方振興局	4	3 (75.0%)			1 (25.0%)
	県南地方振興局	5	1 (20.0%)		1 (20.0%)	3 (60.0%)
	会津地方振興局	13	9 (69.2%)		3 (23.1%)	1 (7.7%)
	南会津地方振興局	7	3 (42.9%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)
	相双地方振興局	5	2 (40.0%)		1 (20.0%)	2 (40.0%)
	いわき地方振興局	3		2 (66.7%)	1 (33.3%)	

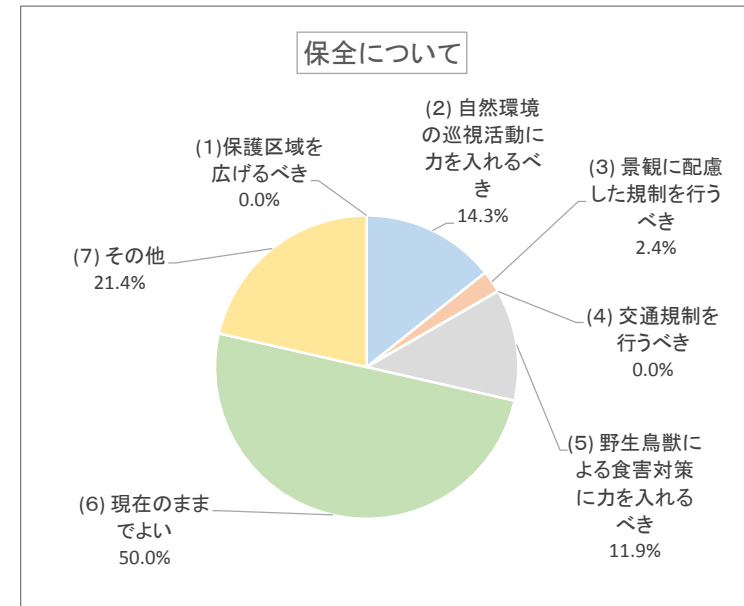


半数以上が、保全や利活用に力を入れるべきと回答

A 保全と利用について

A2 当該自然公園の保全について、最も当てはまるものを1つ選んでください。

	(延べ)回答 市町村数	(1)保護区 域を広げる べき	(2)自然環 境の巡視 活動に力を入 れるべき	(3)景観に 配慮した規 制を行うべ き	(4)交通規 制を行うべ き	(5)野生鳥 獣による食 害対策に 力を入れる べき	(6)現在の ままでよい	(7)その他	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	6 (14.3%)	1 (2.4%)			5 (11.9%)	21 (50.0%)	9 (21.4%)	
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	10	1 (10.0%)	1 (10.0%)		1 (10.0%)	6 (60.0%)	1 (10.0%)	
	尾瀬国立公園	2				2 (100.0%)			
	日光国立公園	2	1 (50.0%)				1 (50.0%)		
	越後三山只見	2					1 (50.0%)	1 (50.0%)	
	只見柳津県立自然公園	6				1 (16.7%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	
	大川羽鳥県立自然公園	4				1 (25.0%)	3 (75.0%)		
	霞ヶ城県立自然公園	1					1 (100.0%)		
	南湖県立自然公園	1						1 (100.0%)	
	奥久慈県立自然公園	3	1 (33.3%)				1 (33.3%)	1 (33.3%)	
	阿武隈高原中部県立自然公園	5	3 (60.0%)				1 (20.0%)	1 (20.0%)	
	勿来県立自然公園	1						1 (100.0%)	
	夏井川溪谷自然公園	1						1 (100.0%)	
	磐城海岸県立自然公園	1						1 (100.0%)	
	松川浦県立自然公園	1					1 (100.0%)		
	霊山県立自然公園	2					2 (100.0%)		
	振興局 単位	県北地方振興局	5					5 (100.0%)	
県中地方振興局		4	2 (50.0%)				2 (50.0%)		
県南地方振興局		5	2 (40.0%)				1 (20.0%)	2 (40.0%)	
会津地方振興局		13		1 (7.7%)		2 (15.4%)	9 (69.2%)	1 (7.7%)	
南会津地方振興局		7				3 (42.9%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)	
相双地方振興局		5	2 (40.0%)				2 (40.0%)	1 (20.0%)	
いわき地方振興局		3						3 (100.0%)	



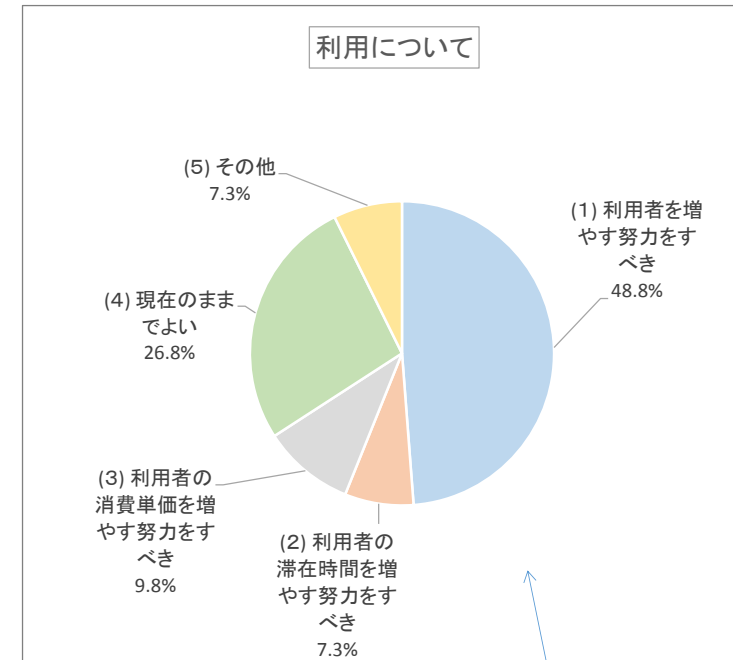
【その他の内容】

- 〈磐梯朝日〉 景観に配慮した規制をしつつ、利用者を増やす施策を
実行すべき。
- 〈越後三山〉 公共工事で自然環境・野生動植物への影響を配慮すべき
(工事に伴う外来生物の侵入、除草剤散布の確認あり)。
- 〈只見柳津〉 公共事業において、自然環境・野生動植物への影響を
配慮すべき。
- 〈南湖県立〉 湖水の水質改善。
- 〈阿武隈高原〉 全域が帰還困難区域であり保全できていない。(浪江町)
- 〈勿来県立〉 松くい虫防除に力を入れるべき。
- 〈夏井川溪谷〉 ごみ対策。
- 〈磐城海岸〉 ごみの不法投棄対策。

A 保全と利用について

A3 当該自然公園の利用者について、最も当てはまるものを1つ選んでください。

	(延べ)回答 市町村数	(1) 利用者 を増やす努 力をすべき	(2) 利用者 の滞在時 間を増やす 努力をすべ き	(3) 利用者 の消費単 価を増やす 努力をすべ き	(4) 現在の ままでよい	(5) その他	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	20 (47.6%)	3 (7.1%)	4 (9.5%)	11 (26.2%)	3 (7.1%)	1 (2.4%)
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	10 (40.0%)	4 (10.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)	
	尾瀬国立公園	2 (100.0%)	2 (100.0%)				
	日光国立公園	2		1 (50.0%)	1 (50.0%)		
	越後三山只見	2			1 (50.0%)		1 (50.0%)
	只見柳津県立自然公園	6 (33.3%)	2 (33.3%)		1 (16.7%)	3 (50.0%)	
	大川羽鳥県立自然公園	4 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)		1 (25.0%)	
	霞ヶ城県立自然公園	1		1 (100.0%)			
	南湖県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	奥久慈県立自然公園	3 (66.7%)	2 (66.7%)			1 (33.3%)	
	阿武隈高原中部県立自然公園	5 (60.0%)	3 (60.0%)		1 (20.0%)		1 (20.0%)
	勿来県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	夏井川溪谷自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	磐城海岸県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	松川浦県立自然公園	1			1 (100.0%)		
	霊山県立自然公園	2 (50.0%)	1 (50.0%)		1 (50.0%)		
振興局 単位	県北地方振興局	5 (60.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)		1 (20.0%)	
	県中地方振興局	4 (75.0%)	3 (75.0%)		1 (25.0%)		
	県南地方振興局	5 (60.0%)	3 (60.0%)		1 (20.0%)	1 (20.0%)	
	会津地方振興局	13 (30.8%)	4 (30.8%)		2 (15.4%)	5 (38.5%)	2 (15.4%)
	南会津地方振興局	7 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)		2 (28.6%)	1 (14.3%)
	相双地方振興局	5 (40.0%)	2 (40.0%)			2 (40.0%)	1 (20.0%)
	いわき地方振興局	3 (100.0%)	3 (100.0%)				



【その他の内容】

- 〈磐梯朝日〉 利用者のマナーを向上させる努力をすべき。
交通整備等、利用しやすい環境づくり。
- 〈阿武隈高原〉 全域が帰還困難区域のため利用できない。(浪江町)

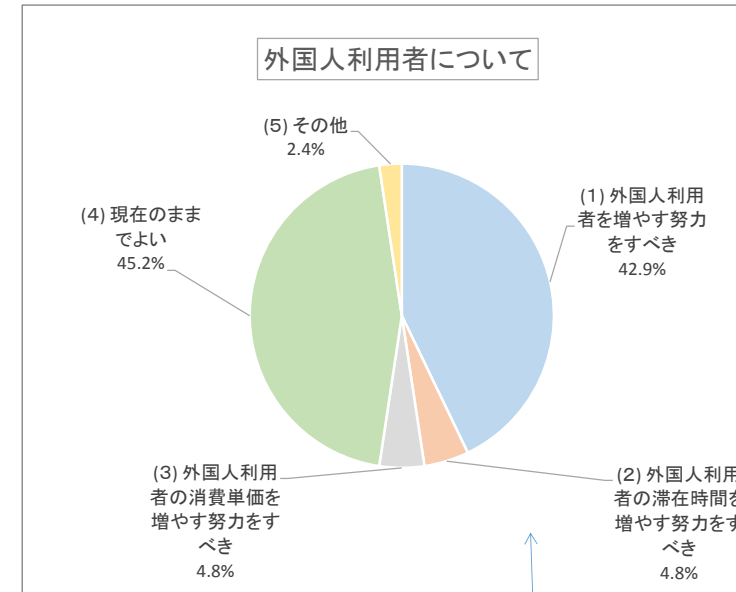


利用者や滞在時間等を増やす必要性あり

A 保全と利用について

A4 当該自然公園における外国人利用者について、最も当てはまるものを1つ選んでください。

	(延べ)回答 市町村数	(1) 外国人 利用者を増 やす努力を すべき	(2) 外国人 利用者の 滞在時間を 増やす努力 をすべき	(3) 外国人 利用者の 消費単価を 増やす努力 をすべき	(4) 現在の ままでよい	(5) その他	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	18 (42.9%)	2 (4.8%)	2 (4.8%)	19 (45.2%)	1 (2.4%)	
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	10 (50.0%)	5 (50.0%)			5 (50.0%)	
	尾瀬国立公園	2 (100.0%)	2 (100.0%)				
	日光国立公園	2 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)			
	越後三山只見	2				2 (100.0%)	
	只見柳津県立自然公園	6 (16.7%)	1 (16.7%)		2 (33.3%)	3 (50.0%)	
	大川羽鳥県立自然公園	4 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)		2 (50.0%)	
	霞ヶ城県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	南湖県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	奥久慈県立自然公園	3 (33.3%)	1 (33.3%)			2 (66.7%)	
	阿武隈高原中部県立自然公園	5 (40.0%)	2 (40.0%)			2 (40.0%)	1 (20.0%)
	勿来県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	夏井川溪谷自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)				
	磐城海岸県立自然公園	1				1 (100.0%)	
	松川浦県立自然公園	1				1 (100.0%)	
	霊山県立自然公園	2 (50.0%)	1 (50.0%)			1 (50.0%)	
振興局 単位	県北地方振興局	5 (80.0%)	4 (80.0%)			1 (20.0%)	
	県中地方振興局	4 (75.0%)	3 (75.0%)			1 (25.0%)	
	県南地方振興局	5 (60.0%)	3 (60.0%)			2 (40.0%)	
	会津地方振興局	13 (30.8%)	4 (30.8%)		2 (15.4%)	7 (53.8%)	
	南会津地方振興局	7 (28.6%)	2 (28.6%)	2 (28.6%)		3 (42.9%)	
	相双地方振興局	5 (80.0%)				4 (80.0%)	1 (20.0%)
	いわき地方振興局	3 (66.7%)	2 (66.7%)			1 (33.3%)	



【その他の内容】

〈阿武隈高原〉全域が帰還困難区域のため利用できない。(浪江町)



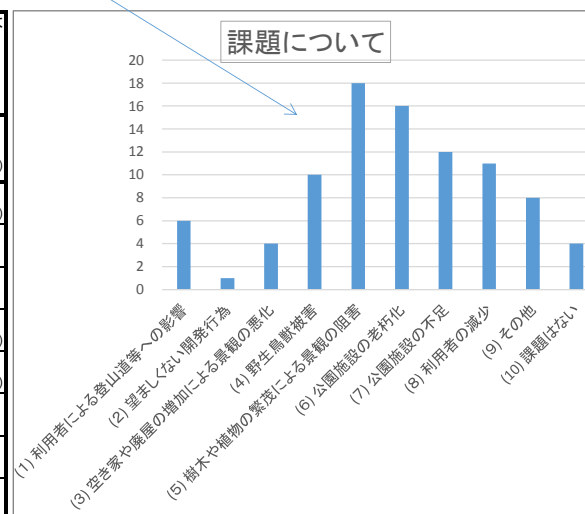
半数以上が、インバウンド対策の必要性あり

B 課題について

B1 当該自然公園の課題として、当てはまるものを3つまで選んでください。

！ ビューポイントの整備、施設老朽化が大きな課題

	(延べ)回答 市町村数	(1) 利用者 による登山 道等への 影響	(2) 望ましく ない開発行 為	(3) 空き家 や廃屋の 増加による 景観の悪 化	(4) 野生鳥 獣被害	(5) 樹木や 植物の繁 茂による景 観の阻害	(6) 公園施 設の老朽 化	(7) 公園施 設の不足	(8) 利用者 の減少	(9) その他	(10) 課題は ない
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	6 (14.3%)	1 (2.4%)	4 (9.5%)	10 (23.8%)	18 (42.9%)	16 (38.1%)	12 (28.6%)	11 (26.2%)	8 (19.0%)	4 (9.5%)
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	10 (30.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	1 (10.0%)	5 (50.0%)	7 (70.0%)	3 (30.0%)	2 (20.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)
	尾瀬国立公園	2			2 (100.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)			1 (50.0%)	
	日光国立公園	2			1 (50.0%)	1 (50.0%)	1 (50.0%)			1 (50.0%)	
	越後三山只見	2	1 (50.0%)					1 (50.0%)		1 (50.0%)	1 (50.0%)
	只見柳津県立自然公園	6		1 (16.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	3 (50.0%)		2 (33.3%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)
	大川羽鳥県立自然公園	4			1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	
	霞ヶ城県立自然公園	1					1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)		
	南湖県立自然公園	1				1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)			
	奥久慈県立自然公園	3			1 (33.3%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	
	阿武隈高原中部県立自然公園	5					3 (60.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)
	勿来県立自然公園	1	1 (100.0%)							1 (100.0%)	
	夏井川溪谷自然公園	1	1 (100.0%)								
	振興局 単位	磐城海岸県立自然公園	1			1 (100.0%)				1 (100.0%)	
松川浦県立自然公園		1						1 (100.0%)	1 (100.0%)		
霊山県立自然公園		2			1 (50.0%)	1 (50.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)			
県北地方振興局		5			1 (20.0%)	1 (20.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)		1 (20.0%)
県中地方振興局		4	1 (25.0%)			2 (50.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	
県南地方振興局		5		1 (20.0%)	2 (40.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	1 (20.0%)	
会津地方振興局		13	2 (15.4%)		3 (23.1%)	2 (15.4%)	7 (53.8%)	6 (46.2%)	3 (23.1%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)
南会津地方振興局	7	1 (14.3%)	1 (14.3%)		4 (57.1%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)		3 (42.9%)	1 (14.3%)
相双地方振興局	5					3 (60.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	3 (60.0%)	2 (40.0%)	
いわき地方振興局	3	2 (66.7%)			1 (33.3%)				2 (66.7%)		



【その他の内容】

〈磐梯朝日〉 自然公園の魅力の向上。外来動植物の駆除。
 〈日光国立〉 樹木倒木による遊歩道、登山道利用への影響。

〈越後三山〉

- ・ごみのポイ捨てやライトトラップによる昆虫採集防止、道路施設の工事に伴う自然環境及び野生動植物の保護・保全（公園内道路施設の維持管理あるいは改修工事において、自然環境・野生動植物への影響がないような施工を徹底すべき。これまでに工事に伴う外来生物の侵入、道路施設管理に伴う除草剤の散布が確認されている）。
- ・公園の存在、範囲の周知の不足。

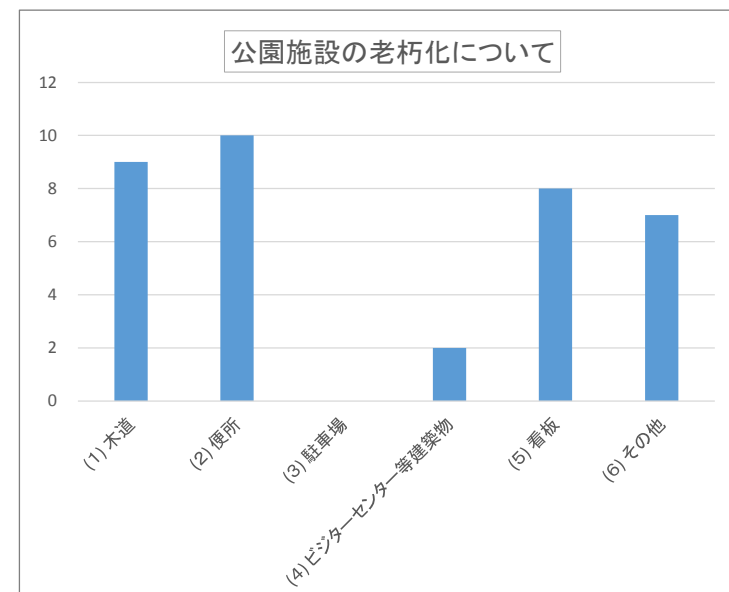
〈阿武隈高原〉

- ・害虫等による樹木への被害に伴う景観の悪化（高柴山等）。
- ・全域が帰還困難区域のため利用できない。（浪江町）
- ・原子力災害による警戒区域と除染の問題。7年間手が入らなかったことによる。

B 課題について

B1-2 [B1で「(6)公園施設の老朽化」を選択した方のみ回答ください]どのような施設が該当しますか。その名称もお答えください。

	(延べ)回答 市町村数	(1) 木道	(2) 便所	(3) 駐車場	(4) ビジ ターセン ター等建築 物	(5) 看板	(6) その他	無回答
*** 全体結果 ***	16 (38.1%)	9 (56.3%)	10 (62.5%)		2 (12.5%)	8 (50.0%)	7 (43.8%)	
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	7	4 (57.1%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)	3 (42.9%)	3 (42.9%)	
	尾瀬国立公園	1	1 (100.0%)					
	日光国立公園	1	1 (100.0%)			1 (100.0%)	1 (100.0%)	
	越後三山只見							
	只見柳津県立自然公園							
	大川羽鳥県立自然公園	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)		1 (100.0%)	1 (100.0%)	
	霞ヶ城県立自然公園	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)		
	南湖県立自然公園	1		1 (100.0%)			1 (100.0%)	
	奥久慈県立自然公園	1		1 (100.0%)		1 (100.0%)		
	阿武隈高原中部県立自然公園	1		1 (100.0%)		1 (100.0%)	1 (100.0%)	
	勿来県立自然公園							
	夏井川溪谷自然公園							
	磐城海岸県立自然公園							
	松川浦県立自然公園							
壺山県立自然公園	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)					
振興局 単位	県北地方振興局	4	3 (75.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	
	県中地方振興局	1		1 (100.0%)		1 (100.0%)	1 (100.0%)	
	県南地方振興局	3	1 (33.3%)	2 (66.7%)		2 (66.7%)	2 (66.7%)	
	会津地方振興局	6	3 (50.0%)	3 (50.0%)		3 (50.0%)	3 (50.0%)	
	南会津地方振興局	1	1 (100.0%)					
	相双地方振興局	1	1 (100.0%)					
	いわき地方振興局							



【その他の内容】

- 〈磐梯朝日〉 土湯滝のつり橋
各浜の脱衣所
- 〈日光国立〉 新甲子遊歩道内の柵、ベンチ
甲子山登山道内の柵
- 〈大川羽鳥〉 アスレチック等
- 〈南湖県立〉 東屋
- 〈阿武隈高原〉 高柴山、矢大臣山、東堂山の登山道



便所、木道、看板等の老朽化が深刻

C 魅力向上について

C1 当該自然公園の利用者を増やすために必要と思われる取組について、当てはまるものを3つまで選んでください。

	(延べ)回答 市町村数	(1) サイン、トイレ、ベンチなどの整備	(2) 遊歩道、木道などの整備	(3) 樹木の枝払い等の展望地の整備	(4) ビジターセンターの整備、充実	(5) レストラン、カフェ、物産店などの整備	(6) ホテルなどの宿泊施設の充実	(7) アクティビティの充実	(8) 案内ガイドの育成	(9) 二次交通の充実	(10) 魅力ある旅行商品の造成	(11) インバウンド対策の充実	(12) 広報、PRの強化	(13) 近隣自然公園との連携	(14) その他	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	22 (52.4%)	21 (50.0%)	12 (28.6%)	2 (4.8%)	5 (11.9%)	2 (4.8%)	5 (11.9%)	7 (16.7%)	14 (33.3%)	2 (4.8%)	4 (9.5%)	12 (28.6%)	3 (7.1%)	1 (2.4%)	
自然公園単位	磐梯朝日国立公園	10 (60.0%)	6 (30.0%)	3 (30.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	1 (10.0%)		3 (30.0%)	3 (40.0%)	4 (40.0%)	1 (10.0%)	1 (10.0%)	3 (30.0%)		
	尾瀬国立公園	2 (50.0%)	1 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)						1 (50.0%)				1 (50.0%)	
	日光国立公園	2		1 (50.0%)	1 (50.0%)						2 (100.0%)				1 (50.0%)	
	越後三山只見	2							1 (50.0%)					1 (50.0%)		
	只見柳津県立自然公園	6 (16.7%)	1 (33.3%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)		1 (16.7%)	1 (16.7%)		1 (16.7%)	4 (66.7%)	1 (16.7%)	1 (16.7%)	2 (33.3%)		
	大川羽鳥県立自然公園	4 (100.0%)	4 (100.0%)	2 (50.0%)						1 (25.0%)			1 (25.0%)	1 (25.0%)		
	霞ヶ城県立自然公園	1					1 (100.0%)		1 (100.0%)		1 (100.0%)					
	南湖県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)										1 (100.0%)		
	奥久慈県立自然公園	3 (66.7%)	2 (100.0%)	3 (100.0%)	2 (66.7%)									1 (33.3%)	1 (33.3%)	
	阿武隈高原中部県立自然公園	5 (40.0%)	2 (60.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)		1 (20.0%)	1 (20.0%)			1 (20.0%)		1 (20.0%)	2 (40.0%)		1 (20.0%)
	勿来県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)		1 (100.0%)	1 (100.0%)										
	夏井川溪谷自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)							1 (100.0%)					
	磐城海岸県立自然公園	1					1 (100.0%)		1 (100.0%)	1 (100.0%)						
	松川浦県立自然公園	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)											
霊山県立自然公園	2 (100.0%)	2 (100.0%)	2 (100.0%)	1 (50.0%)									1 (50.0%)			
振興局単位	県北地方振興局	5 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)	2 (40.0%)		2 (40.0%)		2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)			1 (20.0%)		
	県中地方振興局	4 (75.0%)	3 (50.0%)	2 (50.0%)			1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)		1 (25.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)			
	県南地方振興局	5 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)						1 (20.0%)			2 (40.0%)	2 (40.0%)	
	会津地方振興局	13 (53.8%)	7 (38.5%)	5 (38.5%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	1 (7.7%)	3 (23.1%)	7 (53.8%)	1 (7.7%)	2 (15.4%)	4 (30.8%)		
	南会津地方振興局	7 (28.6%)	2 (42.9%)	3 (42.9%)	1 (14.3%)					2 (28.6%)	2 (28.6%)		1 (14.3%)	2 (28.6%)	1 (14.3%)	
	相双地方振興局	5 (60.0%)	3 (60.0%)	4 (80.0%)	3 (60.0%)						1 (20.0%)			1 (20.0%)		1 (20.0%)
	いわき地方振興局	3 (66.7%)	2 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)		1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)					

サイン、木道、二次交通等の整備が必要


【その他の内容】

〈阿武隈高原〉全域が帰還困難区域のため、解除までは取組を検討できない。(浪江町)

C 魅力向上について

C2 当該自然公園でのアクティビティとして、特に力を入れる必要があると思われる取組について、当てはまるものを3つまで選んでください。

	(延べ)回答 市町村数	(1)トレッキ ング、登山	(2)沢登 り、キャ ニオニング	(3)ロック クライミ ング	(4)動植物 観察	(5)ゲレン デでのス キー、ス ノーボード	(6)サイド カントリー、 バックカント リーでのス キー、ス ノーボード	(7)海水 浴、湖水浴	(8)魚釣り	(9)湖沼ま たは河川で のボート、 カヌー、カ ヤック、ラフ ティング	(10)サイク リング、マ ウンテンバ イク、ファ ットバイク	(11)キャン プ、バーベ キュー	(12)温泉浴	(13)天体観 測	(14)リラク ゼーショ ン、ヨガ	(15)その他	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	25 (59.5%)	1 (2.4%)	2 (4.8%)	18 (42.9%)	3 (7.1%)		3 (7.1%)	2 (4.8%)	4 (9.5%)	9 (21.4%)	10 (23.8%)	3 (7.1%)	5 (11.9%)		7 (16.7%)	
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	10 (60.0%)	6			3 (30.0%)	2 (20.0%)	2 (20.0%)		1 (10.0%)	5 (50.0%)	4 (40.0%)				1 (10.0%)	
	尾瀬国立公園	2	1 (50.0%)			1 (50.0%)											
	日光国立公園	2	2 (100.0%)			1 (50.0%)					1 (50.0%)						1 (50.0%)
	越後三山只見	2															1 (50.0%)
	只見柳津県立自然公園	6	2 (33.3%)			1 (16.7%)				3 (50.0%)		2 (33.3%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)			1 (16.7%)
	大川羽鳥県立自然公園	4	2 (50.0%)			2 (50.0%)	1 (25.0%)										1 (25.0%)
	霞ヶ城県立自然公園	1				1 (100.0%)					1 (100.0%)						1 (100.0%)
	南湖県立自然公園	1	1 (100.0%)			1 (100.0%)											
	奥久慈県立自然公園	3	2 (66.7%)			2 (66.7%)			1 (33.3%)				1 (33.3%)				
	阿武隈高原中部県立自然公園	5	4 (80.0%)			2 (40.0%)						2 (40.0%)		3 (60.0%)			1 (20.0%)
	勿来県立自然公園	1	1 (100.0%)			1 (100.0%)					1 (100.0%)						
	夏井川溪谷自然公園	1	1 (100.0%)	1 (100.0%)									1 (100.0%)				
	磐城海岸県立自然公園	1				1 (100.0%)			1 (100.0%)								
	松川浦県立自然公園	1	1 (100.0%)			1 (100.0%)					1 (100.0%)						
	壺山県立自然公園	2	2 (100.0%)		2 (100.0%)	1 (50.0%)									1 (50.0%)		
振興局 単位	県北地方振興局	5	2 (40.0%)		1 (20.0%)	3 (60.0%)					3 (60.0%)	2 (40.0%)					2 (40.0%)
	県中地方振興局	4	3 (75.0%)			1 (25.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)			1 (25.0%)	2 (50.0%)		1 (25.0%)			
	県南地方振興局	5	4 (80.0%)			3 (60.0%)			1 (20.0%)		1 (20.0%)	1 (20.0%)					1 (20.0%)
	会津地方振興局	13	8 (61.5%)			5 (38.5%)	2 (15.4%)	1 (7.7%)		4 (30.8%)	2 (15.4%)	3 (23.1%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)			1 (7.7%)
	南会津地方振興局	7	2 (28.6%)			2 (28.6%)											2 (28.6%)
	相双地方振興局	5	4 (80.0%)		1 (20.0%)	2 (40.0%)					1 (20.0%)	1 (20.0%)			3 (60.0%)		1 (20.0%)
	いわき地方振興局	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)			2 (66.7%)		1 (33.3%)	1 (33.3%)		1 (33.3%)	1 (33.3%)				

 **登山、トレッキングがキラーコンテンツ**

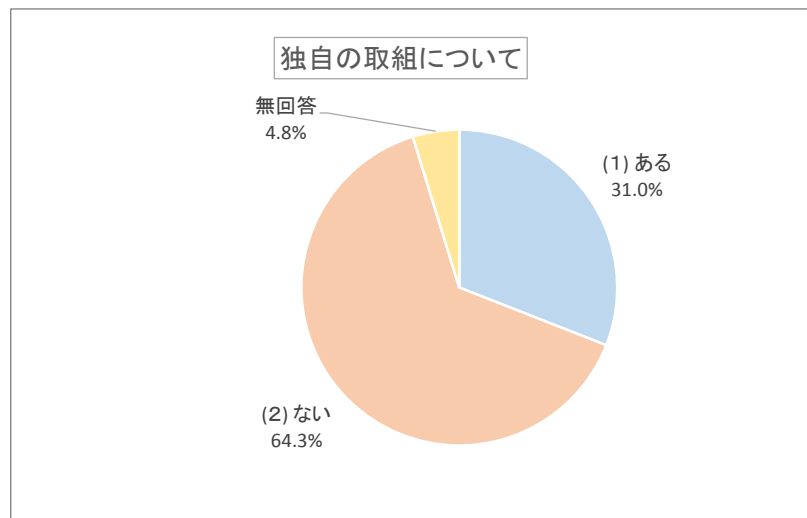
【その他の内容】 〈日光国立〉 遊歩道散策、フットパス、体験事業
 〈只見柳津〉 エコツアーなど公園内資源の持続可能な形での利用
 〈霞ヶ城〉 公園内の傾斜、池、木立、高低差を活かしたジップライン

〈越後三山〉 エコツアーなどの公園内資源の持続可能な形での利用
 〈大川羽鳥〉 向羽黒山城跡（史跡）としての歴史探索アクティビティ

C 魅力向上について

C3 当該自然公園活用のための独自の取り組みはありますか(民間等含む)

	(延べ)回答 市町村数	(1)ある	(2)ない	無回答	
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	13 (31.0%)	27 (64.3%)	2 (4.8%)	
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	10 (50.0%)	5 (50.0%)	2	
	尾瀬国立公園	2	2 (100.0%)		
	日光国立公園	2	2 (100.0%)		
	越後三山只見	2	2 (100.0%)		
	只見柳津県立自然公園	6	2 (33.3%)	3 (50.0%)	1 (16.7%)
	大川羽鳥県立自然公園	4		4 (100.0%)	
	霞ヶ城県立自然公園	1			1 (100.0%)
	南湖県立自然公園	1	1 (100.0%)		
	奥久慈県立自然公園	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	
	阿武隈高原中部県立自然公園	5	2 (40.0%)	3 (60.0%)	
	勿来県立自然公園	1		1 (100.0%)	
	夏井川溪谷自然公園	1		1 (100.0%)	
	磐城海岸県立自然公園	1		1 (100.0%)	
	松川浦県立自然公園	1	1 (100.0%)		
霊山県立自然公園	2		2 (100.0%)		
振興局 単位	県北地方振興局	5	1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)
	県中地方振興局	4	1 (25.0%)	3 (75.0%)	
	県南地方振興局	5	3 (60.0%)	2 (40.0%)	
	会津地方振興局	13	6 (46.2%)	7 (53.8%)	
	南会津地方振興局	7		6 (85.7%)	1 (14.3%)
	相双地方振興局	5	2 (40.0%)	3 (60.0%)	
	いわき地方振興局	3		3 (100.0%)	



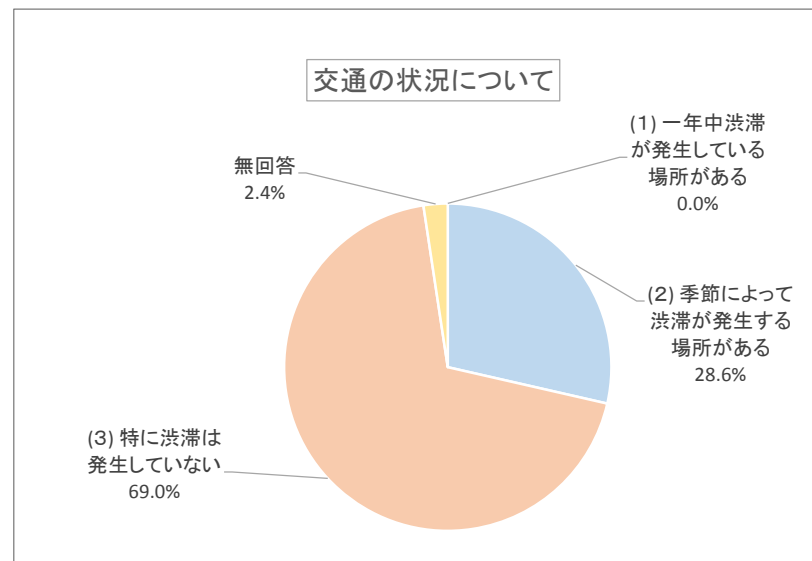
【ある場合の内容】

- 〈磐梯朝日〉 各種トレッキングイベント等
シャトルバス運行による繁忙期のオーバーユース対策
トレッキングコースの充実（19コース）
猪苗代スキー場花畑（H31年度予定）
- 〈只見柳津〉 沼沢湖一周登山道の整備
ドムアップテントキャンプ場の整備（民間）
- 〈南湖県立〉 カフェの誘致等
- 〈奥久慈〉 山本キャンプ場運営
矢祭町観光資源管理計画（仮称）を策定予定
- 〈阿武隈高原〉 あぶくま洞を活用した各種事業
村独持で巡視員設置1名
- 〈松川浦〉 松川浦環境公園

D 交通・周辺状況について

D1 当該自然公園周辺の交通の状況について、最も当てはまるものを1つ選んでください。

	(延べ)回答 市町村数	(1)一年中 渋滞が発 生している 場所がある	(2)季節に よって渋滞 が発生する 場所がある	(3)特に渋 滞は発生し ていない	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)		12 (28.6%)	29 (69.0%)	1 (2.4%)
自然公園 単位	磐梯朝日国立公園	10	5 (50.0%)	5 (50.0%)	
	尾瀬国立公園	2		2 (100.0%)	
	日光国立公園	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	
	越後三山只見	2		1 (50.0%)	1 (50.0%)
	只見柳津県立自然公園	6		6 (100.0%)	
	大川羽鳥県立自然公園	4	1 (25.0%)	3 (75.0%)	
	霞ヶ城県立自然公園	1		1 (100.0%)	
	南湖県立自然公園	1		1 (100.0%)	
	奥久慈県立自然公園	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	
	阿武隈高原中部県立自然公園	5		5 (100.0%)	
	勿来県立自然公園	1		1 (100.0%)	
	夏井川溪谷自然公園	1	1 (100.0%)		
	磐城海岸県立自然公園	1	1 (100.0%)		
	松川浦県立自然公園	1		1 (100.0%)	
	霊山県立自然公園	2	1 (50.0%)	1 (50.0%)	
振興局 単位	県北地方振興局	5	2 (40.0%)	3 (60.0%)	
	県中地方振興局	4		4 (100.0%)	
	県南地方振興局	5	2 (40.0%)	3 (60.0%)	
	会津地方振興局	13	4 (30.8%)	9 (69.2%)	
	南会津地方振興局	7	2 (28.6%)	4 (57.1%)	1 (14.3%)
	相双地方振興局	5		5 (100.0%)	
	いわき地方振興局	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	



【季節によって渋滞が発生する場所】

- 〈磐梯朝日〉 崎川浜、中田浜付近の道路
市道芦平・萩平線 雄国萩平駐車場周辺
裏磐梯地区（国道459号）
磐梯山登山口「八方台」の駐車場付近
- 〈日光国立〉 紅葉時期の観音沼森林公園
- 〈大川羽鳥〉 お盆、紅葉シーズンの国道121号線付近

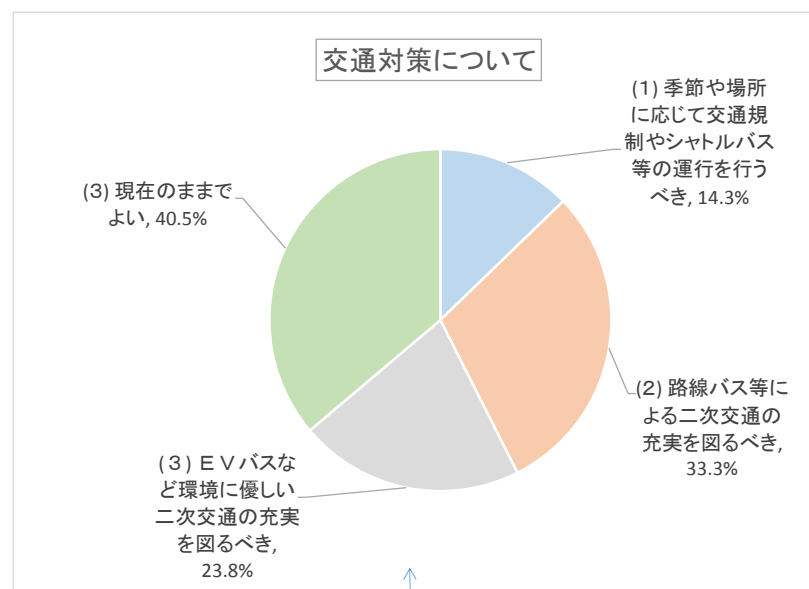


季節により特定の場所で渋滞が発生している

D 交通・周辺状況について

D2 当該自然公園の交通対策について、当てはまるものを選んでください(複数選択可)。

	(延べ)回答 市町村数	(1) 季節や 場所に応じて交通規 制やシャトルバス等 の運行を行うべき	(2) 路線バ ス等による 二次交通 の充実を図 るべき	(3) EVバ スなど環境 に優しい二 次交通の 充実を図る べき	(3) 現在の ままでよい	無回答
*** 全体結果 ***	42 (100.0%)	6 (14.3%)	14 (33.3%)	10 (23.8%)	17 (40.5%)	
自然公園単位						
磐梯朝日国立公園	10	3 (30.0%)	4 (40.0%)	4 (40.0%)	2 (20.0%)	
尾瀬国立公園	2		1 (50.0%)	1 (50.0%)		
日光国立公園	2		1 (50.0%)			
越後三山只見	2				1 (50.0%)	
只見柳津県立自然公園	6		3 (50.0%)	2 (33.3%)	3 (50.0%)	
大川羽鳥県立自然公園	4				3 (75.0%)	
霞ヶ城県立自然公園	1			1 (100.0%)		
南湖県立自然公園	1	1 (100.0%)				
奥久慈県立自然公園	3	1 (33.3%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	
阿武隈高原中部県立自然公園	5		1 (20.0%)		4 (80.0%)	
勿来県立自然公園	1		1 (100.0%)			
夏井川溪谷自然公園	1		1 (100.0%)			
磐城海岸県立自然公園	1		1 (100.0%)	1 (100.0%)		
松川浦県立自然公園	1				1 (100.0%)	
霊山県立自然公園	2	1 (50.0%)			1 (50.0%)	
振興局単位						
県北地方振興局	5	1 (20.0%)	1 (20.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	
県中地方振興局	4		1 (25.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	
県南地方振興局	5	2 (40.0%)	2 (40.0%)	1 (20.0%)	2 (40.0%)	
会津地方振興局	13	3 (23.1%)	6 (46.2%)	3 (23.1%)	5 (38.5%)	
南会津地方振興局	7		1 (14.3%)	1 (14.3%)	2 (28.6%)	
相双地方振興局	5				5 (100.0%)	
いわき地方振興局	3		3 (100.0%)	1 (33.3%)		



環境に配慮したEVバス等の交通対策の必要性

E その他

E1 エコツーリズムや自然保護活動など、自然公園に関わる団体がある場合は、記入してください

公園名	市町村名	関係団体
1 磐梯朝日国立公園	福島市	① 自然公園財団浄土平支部(浄土平ビジターセンター) ② 吾妻山を守る会
	会津若松市	① 湊町観光協会(浜の清掃を委託)
	喜多方市	① 飯豊山岳会 ② 飯豊の山の案内人の会 ③ NPO法人飯豊AGC ④ エーデルワイス山岳会
	北塩原村	① NPO法人裏磐梯エコツーリズム協会 ② 磐梯山ジオパーク協議会 ③ 裏磐梯ビジターセンター自然体験活動運営協議会 ④ 福島県自然公園清掃協議会 ⑤ 雄国沼施設等管理運営協議会
	猪苗代町	① いなわしろ伝保人会 ② 猪苗代山岳会 ③ 磐梯山ジオパーク協議会のジオガイド ④ 猪苗代湖の自然を守る会
2 尾瀬国立公園	(なし)	
3 日光国立公園	西郷村	① エコツーリズム(遊歩道等でのガイド) ② にしごう体験隊 ③ ツーリズムガイドにしごう
4 越後三山只見	(なし)	
5 只見柳津県立自然公園	喜多方市	① 高郷自然愛好豊友会
6 大川羽鳥県立自然公園	会津美里町	① 公益財団法人日本自然保護協会自然観察の会 ② 福島県森林ボランティア
7 霞ヶ城県立自然公園	(なし)	
8 南湖県立自然公園	(なし)	
9 奥久慈県立自然公園	(なし)	
10 阿武隈高原中部県立自然公園	田村市	① 阿武隈高原中部観光連絡協議会
	小野町	① 浮金愛林組合 ② 矢大臣山を愛する会 ③ 小戸神行政区 ※いずれも自然保護活動団体で、町より補助を受け、登山道等の環境整備を行っている。
11 勿来県立自然公園	いわき市	① 県立勿来自然公園を守る会
12 夏井川溪谷自然公園	(なし)	
13 磐城海岸県立自然公園	(なし)	
14 松川浦県立自然公園	相馬市	① 松川浦ふれあいサポート ② 松川浦ガイドの会
15 霊山県立自然公園	(なし)	

E2 その他、全体を通してご意見があればご記入ください。

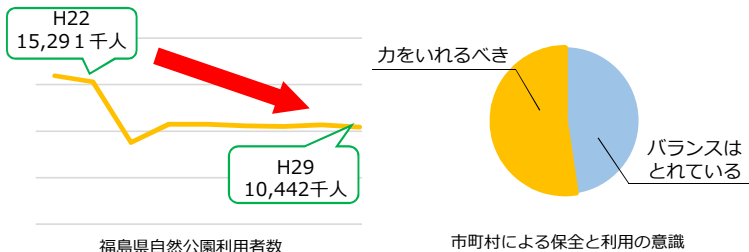
公園名	市町村名	意見等
1 磐梯朝日国立公園	福島市	1. 温泉地(高湯温泉)の修景及び施設整備(ハード整備)に利用できる補助事業の充実 2. 国立公園行為申請に係る規制の緩和
	会津若松市	自然公園内の湖水浴場・キャンプ場について、シーズン中は利用客のゴミの投棄や水道の過剰・不適切な使用など、マナーの悪い行動がみられる。現状キャパシティオーバーで対応しきれいでないので、PRを強化したりエコツーリズムを企画したりといった方法で単純に観光客を増やすことができない状況である。
	北塩原村	五色沼湖沼群の一部で水量が減少した場合、原因を究明し、その対策を講じていただきたい。
	磐梯町	設問D2の選択肢に記載がなかったが、D1で記載した「八方台駐車場」に駐車しきれない車両が滞るため渋滞の原因となっていることから、駐車場の整備拡充を図っていただきたい。
	猪苗代町	1. 猪苗代湖の長浜駐車場について、降雪時の除雪をお願いしたい。 2. 中津川溪谷へ下りる階段が危険な状態につき改修をお願いしたい。 3. 東北自然歩道No. 26「磐梯山のふもとを巡るみち」の転落防止柵が欠落して危険な状態である。また看板も老朽化しているので改修をお願いしたい。
2 尾瀬国立公園	(なし)	
3 日光国立公園	(なし)	
4 越後三山只見	(なし)	
5 只見柳津県立自然公園	(なし)	
6 大川羽鳥県立自然公園	(なし)	
7 霞ヶ城県立自然公園	二本松市	公園施設の老朽化対策、公園施設の充実を図るためには、市の財源の問題もあり今後民間資金の活用が必要である。今後サウンディングによる市場調査を行うつもりではあるが、自然公園に民間投資がすすむような機運醸成などを国、県で行っていただけるとありがたいと考えます。
8 南湖県立自然公園	白河市	ジュンサイの復活を目標に、水質改善の取組として水草駆除や池干を行っているが、水草駆除は専用の刈取船を使用するため多額の費用を要することから県としての助成をお願いしたい。
9 奥久慈県立自然公園	(なし)	
10 阿武隈高原中部県立自然公園	(なし)	
11 勿来県立自然公園	(なし)	
12 夏井川溪谷自然公園	(なし)	
13 磐城海岸県立自然公園	(なし)	
14 松川浦県立自然公園	(なし)	
15 霊山県立自然公園	(なし)	

1 背景・目的

- 福島県の自然公園利用者数は、震災前の7割に満たない状況が続いている。
- 環境省は、「福島再生・未来志向プロジェクト」の一つとして、「ふくしまグリーン復興への支援」を行うことを公表した。
- 「ふくしまグリーン復興構想」は自然環境の保全と調和を図りながら適正な利用により、国内外の交流人口の拡大を目指す。

2 自然公園の概況

- 自然公園を有する市町村向けアンケートでは、自然公園における保全や利用の取組について、力をいれるべきと半数以上が回答。



3 自然公園を取り巻く課題等

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| (1) 上質な景観の保全
樹木の生長等、眺望、景観阻害 | (5) 情報発信
正確な情報発信/一元的な情報発信 |
| (2) 利用拠点の老朽化
施設の老朽化/ニーズへの対応遅れ | (6) 自然環境の保全
外来種の侵入、食害/環境変化 |
| (3) 自然公園の利用実態
日帰り・短時間利用/一時的な渋滞 | (7) 環境負荷の低減
脱炭素、資源循環の取組 |
| (4) インバウンド対策
外国人利用者目線での改善 | (8) 交通環境整備
二次交通の整備と利便性向上 |

4 目指すべき姿

- 自然環境を適切に保全するとともに、自然体験の提供を通じて自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へ継承する。
- 魅力向上と周遊する仕組みづくりなどにより、自然公園利用者数の回復と交流人口の拡大を図り、福島県全体の復興に寄与する。
- 脱炭素や資源循環等の視点による新たな仕組みの検討や構築等を通じて、環境負荷が少なく持続可能な自然公園を目指す。

5 目標 国立公園・国定公園利用者数

H22(2010)年 640万人 → H29(2017)年 580万人 → **【目標】R5(2023)年 700万人**

コンセプト

まもり、みがき、未来へつなぐ。至福のふくしま

6 3つの柱と具体的取組

国立公園・国定公園の魅力向上

自然公園の魅力を活かし、磨きあげ、公園の特徴をいかしたコンテンツを創出。

- インバウンド対策
サイン等多言語化/サービス向上
- 景観の改善
ビューポイントの選定・整備



- エコツーリズムの推進
ファムトリップ
モニターツアー/フェスティバル
- 自然環境の保全
水環境保全活動、調査研究
野生鳥獣による食害対策 等
- 二次交通の検討



尾瀬沼ビジターセンター整備 等

環境変化を踏まえた 県立自然公園の見直し

只見柳津県立自然公園と越後三山只見国定公園を一体的に管理し、保護と適正利用を推進するための調査、検討。

- 県立自然公園の国定公園編入
自然環境調査/協議/連携



国立公園・国定公園を中心に 福島県内を広く周遊する仕組みづくり

自然資源等をつなぎ合わせ広域周遊や何度も訪れたいくなる仕組みを構築。

- ロングトレイルを含む
周遊ルートの設定
ホープツーリズムと連携



- 周遊促進の仕組みづくり
- 多様な移動手段の検討



- 国立公園
①磐梯朝日/②日光/③尾瀬

- 国定公園
④越後三山只見

- 県立自然公園
⑤霊山/⑥霞ヶ城/⑦南湖
⑧奥久慈⑨阿武隈高原中部
⑩夏井川渓谷/⑪大川羽鳥
⑫只見柳津/⑬松川浦
⑭磐城海岸/⑮勿来

7 効果的な実施に向けて

推進体制の整備

- ・団体、市町村等と推進体制
- ・専門家からのアドバイス

情報発信・プロモーション

- ・ワンストップ型ホームページ
- ・海外への周知
- ・各種事業との連携

出典：環境省ホームページ

<http://www.env.go.jp/press/106745.html>

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/111382.pdf>

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/111383.pdf>